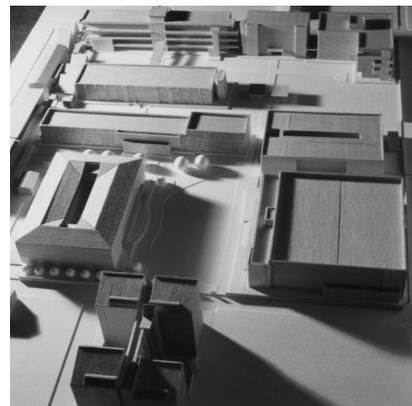
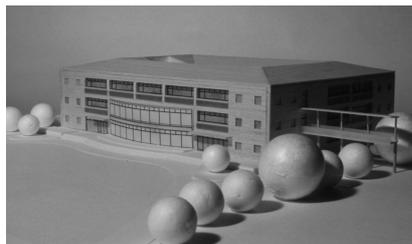


close up

New & Renewal!



新棟完成予想マケット



新棟完成前の散策（シュミレーション）

デザイン科インダストリアルデザインコース 教授 和田義行

2001年2月に待望の新棟が完成します。今回はこの冊子を読んでいるOBやOGといっしょに新棟に散策に出掛けます。

新棟はグラウンドの西側に位置し、東北からのエントランスをくぐり開放的なピロティから吹き抜けのホールへ、左側は学生の作品のプレゼンテーションスペースです。

ここは毎週どこかのコースが作品の講評会やプレゼンテーションをしています。「ここはいつでも、どのコースの学生でも、見て、聞いて、感じることでできる空間」を計画しました。ファウンデーション（基礎課程）を終える一年生には自分の方向を見つける場としておおいに活用されるでしょう。ホールから中庭の空間へ足を運ぶと周りは各工房群でガラス貼りの工房の中で学生達が模型製作やジュエリー、テキスタイルの作品づくりに熱中しています。中庭は雨のあたらない廊下的空間をゆったりと、ここもオープンギャラリーとしてジュエリー、メタルワーク、テキスタイルなどクラフト系の作品展が行われます。「食のデザインを追及するためのキッチン工

房」ではセラミック工房で作った器を使ってライフスタイルコースの学生が、実際の料理を作って、テーブルコーディネートの実習を行っています。となりの和室、茶室でも実習が行われています。

中庭から二階へ、あるいはホール左の階段や荷物を持った人やハンディーの人は右のエレベーターで二階へ進みます。まずはデザイン科のオフィスとデザインスタッフルームが左側にあります。ここはデザインスタッフがサロンのように活用できるようにデザイン資料などジャンルを問わず見ることが出来ます。右側の大学院室はデザイン資料スペースやコンピューター作業やミーティングスペースを設け、大学の研究機構のシンクタンクをめざしています。その隣からはデジタル工房でコンピュータが約100台三つのグレードに別け配置され、3Dアニメーションからデジタルサウンドの編集、ホームページ作成、とメディア系の学生が作品づくりをしています。3階は東側はライフスタイルコースの実技室と研究室、西側は1年基礎課程の教室です。入り口のドアは透明ガラスで開放的に講義風景は良く見えます。3階から中庭を見下ろすと一目で新棟の作業風景が一望でき、創作意欲がますます出てきます。それでは「新しい校舎のイメージ」が沸いたら、ぜひ実際の散策にお越し下さい。

美術文化学科の開設にあたって

東洋・日本美術史担当 教授 山田 耕二

名古屋芸術大学、美術学部は、平成13年4月より新学科、美術文化学科を開設する運びとなりました。美術文化学科は、これまで名芸大美術学部を構成してきました日本画、洋画、彫刻、デザイン、版画といった実技教育を中心とした学科とは異なり、美術と美術のあり方を理論的、学問的に研究し教育、実践する学科として、芸術学選択コースと芸術環境創造選択コースの二選択コース構成によって構想されています。

世界史的には19世紀の後半に美術が広く一般に解放されて以来、すでに一世紀以上の歳月が流れ、その間に美術は時代、社会の変化に対応して目まぐるしいほどに変質、変容を繰り返し、いわゆる現代美術を形成してきました。そして現在、コンピューター等新たなメディアを獲得した美術は、これまでもまして激しくラディカルに変質を進めようとしています。ところが、このような美術界の状況に反し、一般の人々の現代美術離れが過速度的に進行していることもまた、一方の現状のように思われます。言うまでもなく、美術はそれを創る者（作家）と見る者（一般人）の共働作業によって成り立つものです。その意味では見るもの（一般人）の現代美術離れは、これからの美術にとっては存立の可否にも関わる重大事であるばかりではなく、社会的な損失とさえ考えられます。

現代美術は表現方法、形式の無限とも言える多様化と、その結果としてのジャンル間の混淆あるいは融合と言った状況などにより、もはや従来の美術観ではとうていとらえきれない状況になっています。すなわち、今、美術の世界には伝統的な美術観とは異なる新たな枠組みが要求されていると言えるでしょう。そしてそれは、未だ必ずしも形成されているとは言えません。このあたりが、現代美術が社会から乖離する大きな一因になっているのではないかと思います。

こうした美術の現状を踏まえ、美術文化学科は、ひとつには現代と言う視点に立ってあらゆる美術の再評価とそれに基づく美術の新たな価値体系、美術を改めて社会的価値として確立する体系の確立を目標としています。それと同時にもうひとつには、その価値体系を社会的に実現するために、美術活動や美術作品と社会を有機的に

つなぐべく、美術の新たな社会的展開法を創造的に研究し実践する方法の追求を目指しています。この二つの目的のために、美術文化学科には芸術学と芸術環境創造の二つの選択コースが置かれます。言わばこの新学科は、美術の新しい価値体系を構築し、それをもって美術と社会をより緊密につなぐこと、大きく言えば美術の現代における復興（ルネサンス）への理論と実践の仕掛けを目論んでいるのです。その意味ではこの学科が芸術大学という創作活動の現場の真只中に開設されることは大変意義深いことであり、その役割によって美術学部全体の核にさえなり得ると考えています。

とは言っても、何分にも近隣では初めての試みであり、学生が思うように集まるだろうか、また上手く運営できるだろうか等々不安の種は尽きません。そこで、名芸大を卒業された皆様にはこの新学科の設立と発展を、名古屋芸術大学の発展共々、暖かく見守り力強く御支援いただきますよう心からお願い申し上げます。

<美術文化学科 専任スタッフ(予定)紹介>

浅野 徹(教授・近代美術史研究他担当)

名古屋ボストン美術館館長 本学教授

八重樫 春樹(教授、美学・芸術学研究他担当)

元国立西洋美術館学芸課長 西洋美術史研究

相羽 規充(教授)

前中日新聞社事業局長、アートマネージメント、芸術環境文化他担当

前田 ちま子(助教授・美術環境文化研究他担当)

(財)児童育成協会こどもの城造形事業部主任指導員 アート・エデュケーション

高橋 綾子(講師・データ・ベース論他担当)

前愛知文化情報センター学芸員 アート・ドキュメント概論

山田 耕二(教授・図像学・東洋他担当)

本学教授 日本美術史研究

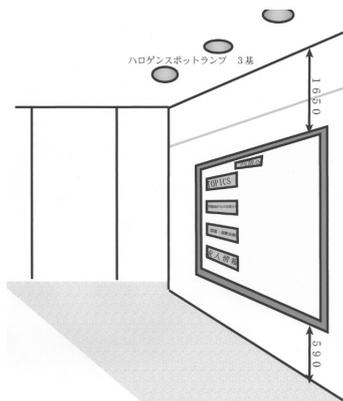
引き分け!安部君、悔し涙。

ここ数年 NUAPRESS でとり上げてきた、23期卒業のWBA世界ミニマム級8位・安部悟選手の続報です。

この10月10日には、東京・後樂園ホールにて、東洋太平洋準々タイトルマッチがあります。同窓生の皆さんも、応援よろしくお願ひします。



掲示板登場!!



B棟吹き抜け売店前に設置

昨年度から、役員会でも取り組んできた同窓生用の掲示板が、今秋、売店前に設けられることになりました。

この掲示板は、同窓生から在校生にむけての情報掲示板です。デザインは在校生の有志が引き受けてくれました。掲示内容は同窓生の『トピックス』『ニュース』等を中心に、『展覧会情報』『会社案内』『求人情報』『アルバイト情報』です。これ以外にも情報は何でもかまいません。大攻勢にアピールしたい情報、募集、紹介等どんどん同窓会事務局までお寄せ下さい。

※封書の場合、掲示希望と明記して下さい。よりスムーズに管理できますので、よろしくお願いいたします。

彫刻科から造形科への 名称変更について

彫刻科長 教授 萩原 清作

我が彫刻科は名芸大の大学改革と平行して、平成13年4月より彫刻科から造形科へ科名変更の申請中であり、今年の10月頃にはその認可が下りようとしています。すでにその第一段階として、平成11年より定員増し(30名増)を行ってきました。

昨今皆様もご承知の通り景気の低迷に加えて、受験生の漸進的な減少(小年化傾向)により、大学、短大も含めて、生き残りをかけた大学改革が国立、私立を問わず行われています。名芸大も例外ではありません。そして何年か後には学生が大学を選ぶ時代が来、受験生、学生のニーズに合った大学教育が求められるようになります。

私たち彫刻科もそれに対応すべく内部改革を試みました、すなわち選択コースの拡大とカリキュラムの見直し、そして人事です。

具体的には30年続いた伝統の上に新しく工芸選択コース(陶器、ガラス)を加え、彫塑選択コース、造形選択コースと3コース制にし学生の選択の幅を広げました。又、今まで3年次よりコース選択だったのを2年次からにし、より専門に徹するようにしました。

説明が逆になりましたが1年次を基礎課程として、すべてのコースに行くための総合的な力がつくように考えました。デッサン、絵画、版画、

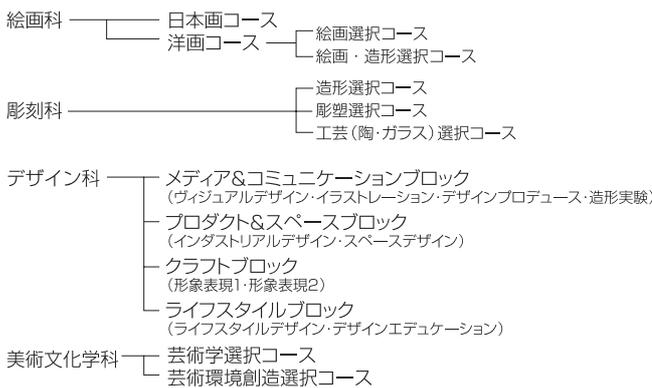
彫塑、立体形体、素材研究とし、1年の終りに本人の希望と面接によるコース選択にしました。入試も実技試験は1次、2次入試のみであり、推薦入試、東京入試は持参作品による面接重視の試験に変えて、多角度から学生の資質を探ります。

人事では、造形選択コース主任に庄司達先生を招き、工芸選択コース主任に杉江淳平先生に来てもらいました。その他漸次新しい先生を予定しています。新しく加えた工芸選択コースのガラスと陶器については、クラフト的なガラス、陶器ではなく、少人数制による芸術意識の高い、あくまでも立体造形の素材としてのガラス、陶器、として考えています。特に陶器は中部という特殊で有利な条件を持っており、又ガラスは、今おおいに注目されている造形表現素材であり、コースを持っている大学が少ないという利点があります。

以上のように、豊かで充実し、より専門性の高い立体造形教育を目指すべく考えた末、広い意味で名称を造形科としました。

彫刻科卒業生の皆様は、彫刻科という名称がなくなるのが非常に寂しく思われると思いますが、私たちのこの改革がより豊かな未来を築くものとして、今まで以上に熱い眼差しと声援をお願いします。

美術学部組織図



A 棟屋上からの大学構内風景

close up New & Renewal!

フランス中世フレスコ画完成



左/狭い踊り場で
足場を組んでの作業風景
右/完成

絵画棟2F~3F~4Fの階段の踊り場に、フランス中世の壁画が完成しました。
3年生のフレスコ(日本画技法III)の授業でムティエ(フランス)の協会の壁画を再現。

黒宮 真帆

日本画24期生



4年の夏、中国からの帰り道。ミルクティ色の海の見える船上で初めての1人旅にインドに行こうと決めました。中国を出発して半日、揺れている食堂のテーブルを囲んで、まだ船酔いをしていない旅行者達と旅の話に花が咲いていました。

私は春に中国へ短期留学をしていたので、今回その友達や先生と再会ということもあり、とても充実した気持ちで話を聞いていると、その時、1人の学生が「俺はインドも行ったこともあるけど、それと比べると中国もの足らんかった。」というのです。そ聞き捨てならない言葉がきっかけとなり、インド行きを決めたのでした。

帰ってから私はインド関係の本を読みあさり、そして妹尾河童の「河童の覗いたインド」に出会いました。それがきっかけとなり、私の旅日記は始まりました。

絵を描くことで人と交流出来、そこからまた輪がどんどん広がってきました。時にはオリガミ教師として小学校に招かれ、時には寺でお世話になったり。そして私は人々を描き続けました。2年前には妹尾河童さん自身に会って旅日記を読んでもらう機会もあり、応援をしてもらいました。

今は中学校講師で、旅話もしながら授業をしています。

旅日記は2冊のインド編に加え、中国編、タイ編、ヨーロッパ編、日常編になりました。もう少し増えたら本にしたいと思っています。

平岡 和広

洋画10期卒

『平岡ステンドグラス工房』お問い合わせ
愛知県半田市亀崎町10-17
tel 0569-29-3310 fax 0569-29-5400



ステンドグラスとの出会いは名芸在学中、一年目の夏でした。大阪で叔父が経営するステンドグラス工房で見習いとして仕事を手伝わせてもらうことになり、そのとき初めて、ステンドグラスと出会うこととなりました。それまで見たこともなかった色ガラスの欠けらを手にし、そっと陽の光に照らしてみた時、厚さ3.5mmの小さなガラス片の中に、宇宙を感じさせるほどの美しさと魅力に取り付かれ、それ以来大学で絵画の勉強と同時にステンドグラスの修行に打ち込みました。

大学卒業後は社会人としての経験を修得するため、(株)ワールド、中学校美術講師を経て、25歳の時に念願のステンドグラス工房を自分の手で開設し、その年に在学中から付き合っていた同級生の実美と結婚し、二人三脚で工房経営を始めることになりました。

しかしながら自分が描いた夢とは裏腹に、現実決して平坦なものでは

なく、特にこの中部地域ではステンドグラスといえば教会という認識が強く、建物の空間を演出する装飾窓として、また光りが奏でる芸術作品としてご理解いただくには程遠い現実が目前に立ちただけ、一人一人、一步一步、情熱と夢を持ってステンドグラスの魅力とその役割をご理解いただく毎日が長く続きました。その努力と情熱の甲斐あってか、しだいに多くの公共・民間施設に採用していただき、平成元年の「世界デザイン博」では当工房が単独作品展をさせていただき、多くの人にステンドグラスの魅力に触れていただくことができました。また昨年には、明治村 聖ヨハネ教会堂(国/重要文化財)のステンドグラス全面修復・復元工事(65㎡)に単独で携わせていただきました。

まだまだ、毎日が勉強と努力の日々ですが、自分が愛する仕事に精一杯、真正面から取り組んでおります。

相川 真葵

日本画27期卒



日本画コースの研究生になってから今までに描いた作品は、50号と10号のたったの2枚。お父さん、お母さんごめんなさい。しかも学校では写真工房へ写真を焼きに行くことの方がアトリエに行くよりも多いかもしれません。写真はとても楽しくて大学2年の時から始めてから魅了されていて、これからも続けていきたいのですが、楽しいばかりで満足してしまっているため、進歩が無く、今の自分には「これだけはずごく頑張っている!」と言えるものがないのも事実です。今後の進路も未定のままで、不安とプレッシャーを多少感じていたりしますが、元々前向きな性格なので楽しく充実した気持ちで日々過ごしています。時間にゆとりのある今のうちに旅行に行きたいとも考えています。卒業旅行として3月に1人でアジアへ旅に出て以来、旅好きになってしまい、何度も行けるようにバイトもガンガンやっています。(このバイトが日本画制作の支障になっている一因であることは否めませんが)

私はひとり旅へ何故もっと早く、もっとたくさん行かなかったのかと後悔しています。旅は度胸もつくし人のふれあい、感動や反省も、すべてが刺激的で、他では学べないものが体験できて、学生の方は、どんどんチャレンジしてほしいです。私ももっといろんな所へ出かけて、色々なものをこの目で見てきたい。だから、できればこのまま自由な生活をしたいけれど、それではダメな社会人になってしまうので、自分の好奇心を仕事に出来る職業についたらなあと思っています。就職というと、私でも深く将来についてどう進むべきか悩んでいるときがあって、ある敬愛するライターさんに相談したことがあったのですが、その方は自分の体験を元に、5年後10年後の自分はどんな仕事をしたいか、どうありたいか考えてそれに向かって今何をすべきかを考えてごらんかと教えてくれました。今はまだ模索中ですが、道が開けた気がして楽になったものです。このライターさんと将来一緒に仕事ができたら、それはそれで理想の自分だと思います。自分のペースで毎日を過ごすという、人生でとても贅沢な時間を味わっているので、これからキビシイ試練が起きても仕方ないと覚悟しているものの、相変わらずの毎日を過ごして楽しんでる私です。

加藤 文博

デザイン21期生



とかく世間には、必要とするデザインとどうでもいいデザインとがあり、その見分け方は千差万別である。何が必要で、何が必要でないのか、これほど不特定で不明快なカテゴリーは無いと思われる。

「この店のデザインいいね。」こんな曖昧で無責任な言葉を平気で言うやつが一番信用出来ない人と、この業界（飲食店舗設計）に6年間いて感じる事である。例えば、「ある35坪の物件にイタリアンレストランを開きたい。」というオーナーがいるとする。この一言から私の仕事は始まり、オーナーの要望を最大限聞き、デザイン、設計、施工をし、オープンさせるわけだが、その途中過程には想像を絶する程のやらなければいけない事柄がもうええっちゃうぐらいいるのである。それは、

- 1 オーナーヒアリング（どんな店にしたいか曖昧な意見を聞く）
- 2 イメージベース、イメージ写真、平面客席厨房レイアウトで1、をまとめる。（ここで2〜3回打ち合わせをする。）
- 3 基本図面（平面、天伏、展開図）
- 4 厨房器具レイアウト（どうゆう商品を作るかヒヤリングし、必要な厨房器具を選択し、調理人の使い易い導線計画をしてレイアウトを決める）
- 5 基本設備容量設定（電気容量、給排水、ガス、換気、空調等、人間が客席と厨房にいて快適に過ごし、作業できる環境を計算と経験から設定するが、ここの設定を間違えるとえらい目にあってしまう。）
- 6 建物本体の建築工事打ち合わせ、調整（区画外の工事は通常本体工事範囲なので依頼、調整が必要となるが、ちょっとややこしいので省略）
- 7 消防署への確認申請（店を営業するには消防法上必要な消防、予防設備を設備しなければ営業出来ず、当然検査も受けます。その調整、確認申請も重要な業務の一つである。）
- 8 保健所への確認申請（当然衛生面で保健所の許

可も営業するのに必要）

- 9 実施図面の作成（1〜8をふまえて全ての詳細、事柄を図面に事細かく、ピスのサイズ一個まで網羅します。）
- 10 見積作成、提出、値決め（原価集計、業者ネゴ調整）
- 11 工事工程表作成、各工事業者の工事調整
- 12 最終使用材料品番確認、変更調整
- 13 着工、中間チェック（定例会の開催調整）、竣工
- 14 引渡し、竣工検査（残工事、追加工事の確認、発注）
- 15 消防検査
- 16 保健所検査
- 17 プレス オープン
- 18 グランド オープン

とまあ、大まかに説明するとこうなるわけで、こんな調整、確認の連続でデザインと言われる仕事はたったの10%程度、好きでなきゃあやってられないのである。

自分のデザインで始めてオープンまで、しこたま努力（努力という言葉は嫌いだ）し、存在しない物にお金を出すオーナーからのハイプレッシャーに合い、やっとオープンして自分なりに納得、反省し、ほっとしている時に「この店のデザインがぶんじやらんじゃら・・・っと言われたら、「お前が言うな!」と言う気になってしまう。

たったの10%の部分しか評価出来ないやつほど信用出来ないものはない。

商店建築という雑誌に掲載される店の写真を見て「私もこんな店のデザインがしたい」と、思っている人がいるが、そんな人に俺は言いたい、残りの90%が出来ないやつには店舗設計はできない、店のデザインはあきらめる。商店建築に載るデザイナーは残りの90%をやっている人です。

そんなデザインが必要とされる一つです。

after Graduate...

中島 安希子

版画コース20期生



専業主婦に憧れて昨年七月に六年間勤めたデザイン事務所を辞めた私。十分に専業主婦生活を満喫していたけれど、昨年末には、頼まれて家で仕事をせざるを得なくなった。お小遣いが稼げる程度の仕事をしてゆくつもりだったけれど気がつけば本格的に……。幸か不幸か今では、毎日なんだかんだとマックの前に座って仕事をしている。そして、会社に勤めている頃よりも楽しくデザインに取り組んでいる。

そんな折、夫が会社を辞めて独立すると言い出した。まあ、まだ子供もないし、何とか二人だけだったら大丈夫だろうとお氣楽に賛成してしまったが、子供がいたらきっと経済的に不安で賛成はしなかったと思う。まだ開業の準備段階ではあるが、いざ夫が一日中家に居て仕事をしていないのを見ると本当にこれから生活していけるのか不安になってしまう。それに、結婚してからこんなに長く一緒に居るのは初めてで、今まで知らなかった部分も見えてきたりしている。結婚するときには思わなかったが、今、二人で一緒に仕事をしていこうと決めるとき、これからさううっと一緒に居るんだと思うと気が遠くなってしまった。だからといって、一緒に居るのがいやなわけではないのだが、それに、夫の方も同じことを思っているかもしれない。どうだろうか？

どちらにしてもこれから先、大変なことや辛いことが沢山待ちかまえていると思うが、二人で力を合わせて楽しく仕事をするよう心がけたい。そして、順調に仕事が進められますように。

中島 英統

版画コース18期生



実は僕、この夏に約八年と十ヶ月勤めてきた広告制作会社を辞めたばかりで、現在、これからの身の振り方を思案している真っ最中なんです。

この年齢（今年三二歳）で、他に特別就きたい職業があるわけでもないで、収入を得る手段として、

やはり広告のデザインを——仕方なしにというのではなく、積極的に——やっていきたいと思っているところなんです。思えば十年前、就職活動をしている頃には仕事に対して前向きな考えなんて持っていませんでした。当時大学四年生の僕は、自分が何をやりたいのか全くわからず、その上、デザイン科に所属していたにもかかわらず自身のデザインの能力などこれっぽっちもないと思込んでいたので、一人前に悩んだ挙げ句、収入の大きさだけを重視して、今思えばデザイン以上に自分に向いていなかったであろう職業（営業）に就いてしまいました——結果的に半年ももちませんでした、案の定。

その後、広告の世界で昼となく夜となく努力している友人たちに触発されて、僕もデザイナーとしてがんばってみようと思つたんです。大学に入学する際に憧れて選んだ道、試してみないであきらめるのはもったいない話ですから。

今でも広告の仕事为天職と思っているわけではないのですが、少なくとも、やりたいことが見えてきたというだけでもちょっとは成長しているのかなと感じる今日この頃です。

あとはデザイナーとして成長していかなければ……。

五十嵐 英之

洋画14期生



指折り数えて14年。名古屋芸術大学を卒業して……スタジオは名古屋から京都へ。作品の制作、発表の繰り返し。観てくれた人との感覚や意識、価値観の交流、この歳の中でそれが私にとっての一番の宝。

卒業してから作品はどんどん展開、私自身の経験・気づき、それらが表現したくなるものを突き動かし方向付けしてはいるのではないかと近年「対」である表現に着目。人と人が向かい合う関係や、対話する関係、それらの意味について考え続けている。そのきっかけは自閉症児との絵画による対話（ドローイングをなかだちとしてのコミュニケーション）にある。8年前、聴覚をよりどころとする表現が苦手な、言語的コミュニケーションが困難な13歳の自閉症の男の子と出会った。3年間毎日生活を共にし、絵画的表現を彼と私との間に挟んでコミュニケーションをとることができた！

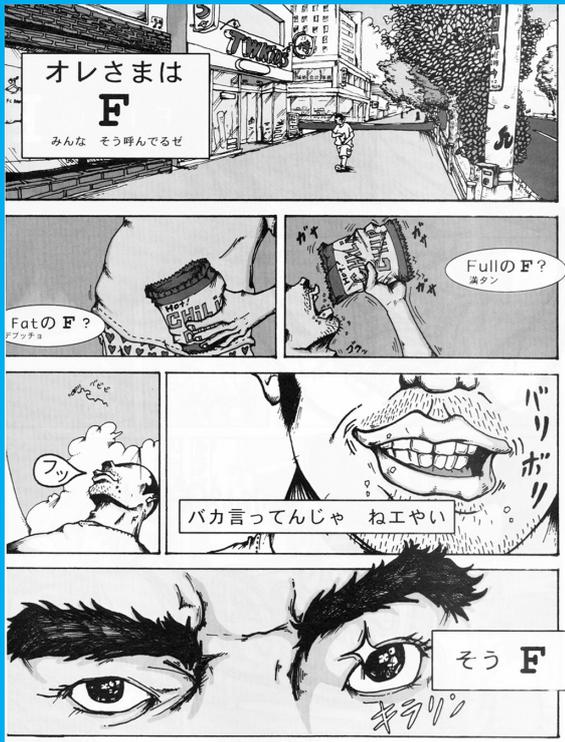
《私が描いた模様のようなイメージをみて彼が描き始める。彼は喜んで写している。新しいイメージが生まれる。その彼が描いたイメージをもとに私が新たなイメージを描く。私が彼の絵をみると、当然のことながら先に描いた私のイメージを感じる。それと同様、次に私が描くときにはそのイメージの中に彼が次にどんなイメージを描いてくれるんだろう

と期待を含めている。これから展開する未来のやりとりを意識しながら描いている。何度も描き、描かれ、表現したものを交わしていく。朝、昼、夕方と交わっていた。そのイメージ表現は数千枚にもなった。》

そんな経験の中で私自身の作品は展開した。人と人とが交わり合う行為や向かい合う関係の中での気づき。

素材にはハーフミラー……私にとってそんな関係を表現するためにある。相違ある形・相違ある意味のもの、それらのイメージを重ね合わせることでよりみえるもう一つの何か。そのイメージは固定的なものではなく、相互の関係における変化（随伴的变化）によって決定づけられる。自閉症児とのセッションにおいては“あなたの絵を私が描いているのか、私の絵をあなたが描いてくれているのか、あなたの表現は私の表現なのか、私の表現はあなたの表現なのか、判断できなくなる。”そんなことを実感した。そして“あなたと私”相互における一つの事実がみえた。そこに新たな視点があった。今もそのような関係を興味深く捉えている。私の表現は今を生きる私からしか生まれてこない。興味ある☆☆との出逢い、はじめてみる○○○○……これらが作品の展開に必要なものとなる。

after Graduate...



上・SNOWboarding MAGAZINE JAPAN 9月号に掲載された漫画
右・Fine 7月号での本人特集記事 / 右下・同雑誌に書き下ろされたイラスト



大塚 知伸

デザイン24期生

～1974年生まれ現在25歳。スポンサーはYAS、PONGIの帝王、Zno G.M.P.、スノーメズクラブ牛魔王、キャップリトンチンズ、NOA GOLFCLUB、アストロキッズ、ファーアストチルドレン。スノーボーダーにしてマンガ家。将来の夢は2002年のW杯の解説者。。。。
以上は本人のプロフィールからの抜粋です。

ヤングジャンプの新人奨励賞を卒業後すぐ受賞。その後も雑誌『Fine』のイラストや、おなじく雑誌『SNOWboarding MAGAZINE JAPAN』では9月から連載マンガが始まったばかり。サッカー、スノーボード、マンガと自由に行き来する大塚君に今後の活躍を期待するところです。

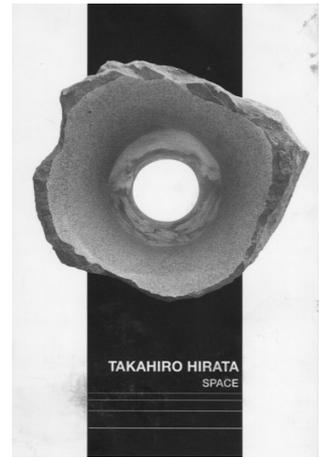
美術学部 後期の主な予定

10月	14 土	進学相談日 (15日)	2月	4 日	平成13年度造形科・美術文化科入試 (4～5日)
	31 火	芸大祭準備日		13 火	平成13年度絵画科・デザイン科入学試験期間 (13～14日 15日)
11月	1 水	芸大祭	3月	15 木	平成13年度美術学部3年編入学試験 (15日)
	4 土	芸大祭後片付け日		23 金	平成13年度造形・デザイン科東京会場入試
12月	22 水	学院創立記念日 休業日	27 火	卒業制作展 愛知芸術文化センター (～3/3 [日] まで)	
	26 日	平成13年度大学院美術研究科入学試験		2 金	平成13年度美術学部研究生入学試験
2000.1月	2 土	平成13年度美術文化学科推薦入学試験	22 木	平成12年度 卒業式	
	3 日	平成13年度美術学部推薦入学試験	23 金	春季休業開始	
	21 木	冬季休業開始 冬季一斉休業期間 (12/27～1/5)	24 土	平成13年度造形科第二次入学試験 (24日)	
	8 月	冬季休業終了	25 日	平成13年度美術文化科第二次入学試験 (24～25日)	
	9 火	後期授業再開		平成13年度デザイン科論文コース入学試験 (24～25日)	
	15 月	後期授業終了			

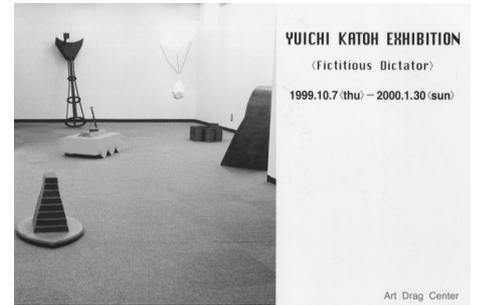
今回、同窓会が後援を行った展覧会報告

この制度が作られて4年目になろうとしています。毎年多数の同窓生からの「後援依頼書」が届いています。いま一度、下記の後援規約をご確認の上ご応募ください。今年も沢山の後援依頼書をお待ちしています。これからも同窓生の方々の各方面でのご活躍を期待しています。

- 平田 隆宏展 (19期卒 平田隆宏)
1999年9月17日~26日:GALLERY APA
- 加藤 優一展<Fictitious Dictator> (23期卒 加藤優一)
1999年10月7日~2000年1月30日:アートドラッグセンターきわまり荘2F
- 宮本 英明展 (18期卒 宮本英明)
1999年11月3日~8日:ギャラリーくさ笛
- Artists Files 1999 (24期卒 加藤きく江 他12名)
1999年12月7日~12日:愛知芸術文化センターG・H
- Beyond The Century (26期 百合草尚子 他17名)
1999年12月18日~2000年1月10日:ギャラリーBE.be
- 若武者 [日本画展] (22期卒 林真 他11名)
2000年1月18日~23日:ノリタケギャラリー
- 第2回 森下 淑美・佐々木 美樹子 油絵展
(16期卒 森下(旧姓田中)淑美,17期卒 佐々木美樹子)
2000年2月1日~29日:画廊喫茶 ろこ
- 櫻井 昇二・木村 真奈美展 (18期卒 櫻井昇二,13期卒 木村真奈美)
2000年5月21日~6月10日:画廊喫茶 ろこ
- 第4回幹の会 日本画展 (23期卒 藤田摂子 他3名)
2000年5月23日~28日:愛知芸術文化センターH
- ギャラリープラネット洋画展 (23期卒 鈴木義晴 他3名)
2000年6月3日~11日:ギャラリープラネット
- 「剛と剛展」日本画展 (25期卒 宮本剛 他1名)
2000年7月1日~3日:美阜屋画廊
- 布袋で美術 (22期卒 川田英二 他4名)
2000年7月23日~30日:アートハウス・七福亭
- group COM展 (23期卒 暮石立次 他9名)
2000年8月24日~30日:ギャラリーチカシン



平田 隆宏展



加藤 優一展



Beyond The Century

再度確認を！お願いします！

様式1	後援依頼	様式2	報告書
	○年○月○日		○年○月○日
	名古屋芸術大学美術学部同窓会 会長 青木 高弘 殿		名古屋芸術大学美術学部同窓会 会長 青木 高弘 殿
	第○期○○○科卒業 ○○○○○ 印		第○期○○○科卒業 ○○○○○ 印
	下記の作品展について後援をお願いします。		
1) 名称	○○○○展	1) 名称	○○○○展
2) 場所	○○○ギャラリー (住所・電話番号)	2) 場所	○○○ギャラリー (住所・電話番号)
3) 会期	○年○月○日~○年○月○日迄	3) 会期	○年○月○日~○年○月○日迄
4) 代表者(出品者)	郵便番号・住所 ※氏名(第○期○○○科)・電話番号 注) ※印は出品者全員記入	4) 代表者(出品者)	郵便番号・住所 ※氏名(第○期○○○科)・電話番号 注) ※印は出品者全員記入
		5) 入場者数	○○名
		6) 写真	写真○点添付致します。
			以上作品展について報告致しますので後援金の支給をお願い致します。 振込先/○○銀行・○○支店・○○座・No.○○ 住所・氏名(名義)・電話番号

作品展に於ける後援規約

名古屋芸術大学美術学部同窓生による個人又はグループの作品展に対して同窓会が後援する事により、同窓生の社会に於ける活動を支援する。

1.資格

名芸大美術学部同窓生で会費を収めた者。
(グループ展の場合おおむね3割以上の同窓生で構成し、同窓生全員が会費納入者である事)

2.後援金

個展・グループ展とも1回に二万円とし、年2回以上開催の作品展は年1回とする。但し、後援金使用は認める。

3.手続き

イ) 会期3ヶ月前迄に後援依頼書を提出し同窓会役員会の審査を受ける。

ロ) 作品展終了後10日以内に、DM及び会場(作品)写真数点を添え報告書を提出する。尚、DM及び写真は資料にするため返却出来ませんので御了承ください。

4.条件

イ) 作品展のDM・看板等に後援名「名古屋芸術大学美術学部同窓会」を明記する。

5.問い合わせ

名古屋芸術大学美術学部事務局
TEL0568-24-0325

